

多自然川づくり取組事例

タイトル : 礪河原のある水辺空間の創出		
水系 / 河川名 : 沙流川水系 / 沙流川	河川分類 : 大河川	
河川の流域面積 : 1350km ²	整備計画流量 : 4500m ³ /s	セグメント : 2-2
事業 : 河川改修	事業開始年度 令和6年度	
目標設定 : 定性的	段階 : P(計画時)	
課題・目的(主な) : 流下能力の確保、礪河原、砂州・中州の保全・再生・創出		
工法(主な) : 掘削(高水敷)		
配慮事項(主な) : 河川景観への配慮、歴史・文化への配慮		

背景・課題、目標設定

<背景>

洪水による被害の軽減を図るための河道掘削においては、河川環境、景観、及び地域文化に配慮しながら実施することとしており、漁業やアイヌ文化継承において地元の各関係者に意見を聴きながら実施している。

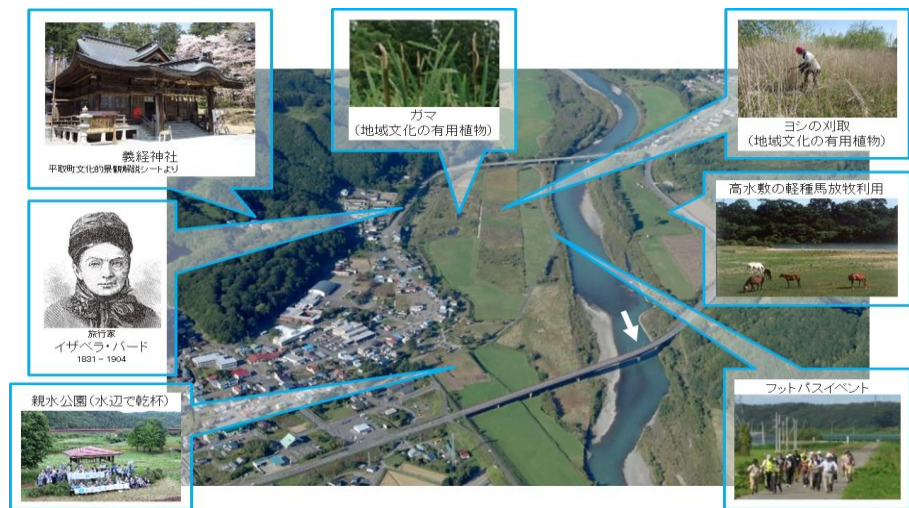
発表事例箇所は、背後に市街地が広がり、サイクリングやフットパス、地域のイベント会場など憩いの場として利用されている親水公園や、約15年前にかわまちづくりにおいて整備された地域文化の伝承に欠かせない植生が生育する水辺空間が隣接しており、河道掘削にあたって、既存の多様な利用に配慮した礪河原の創出が地元から求められた。

<課題>

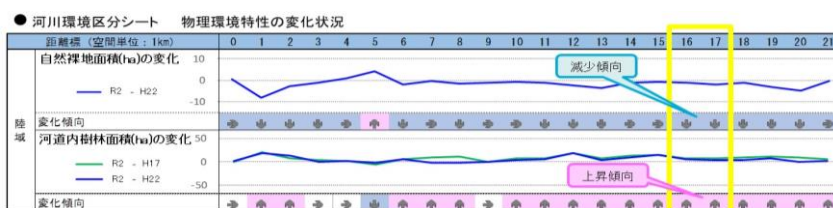
地元からの礪河原の創出の期待に対し、具体的な礪河原のイメージと、維持管理の観点の共通認識を図ることが課題となった。また、既存の多様な利用を活かした整備も課題となった。

<目標>

礪河原に近づくための具体的なアクセス形状や、整備後の地域と協働した維持管理、想定される植生環境について、地域の方々と共通認識を図りながら整備形状等を設定することを目標とした。



取組内容・対策例(1/2)



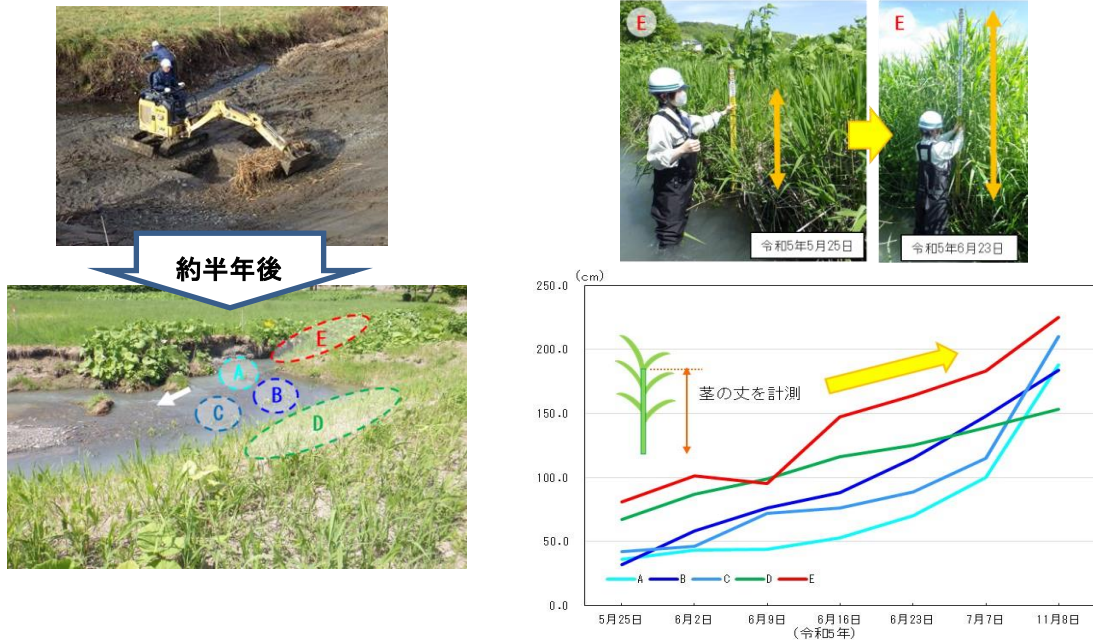
<取り組み内容>

- ・河川環境管理シート等より長期的な河道特性の把握を行った。
- ・樹林化の原因となるヤナギ類の生育抑制のため、ヤナギ類の種子散布時期(5~6月)の流況を鑑みた掘削高を設定した。
- ・また、背後の親水公園との連続性を鑑み、画一的でない掘削形状を設定した。
- ・地元関係者との意見交換は、現地を一緒に確認するなど、維持管理を踏まえた整備イメージについても共有認識を図りながら取り組んでいる。



取組内容・対策例(2/2)

- ・掘削によって現れる法面の対応の一つとして、整備箇所区間の高水敷においてあらかじめ試験掘削を行い、敷地内に見られたヨシの根茎を移植しモニタリングを行った。
- ・掘削による物理環境の変化によってヨシの根茎移植をしなかった掘削法面からも良好なヨシが生長することが確認できた。



モニタリング結果、アピールポイント、今後の対応方針

<アピールポイント>

- ・蓄積されたデータを把握し、河道特性を地域との意見交換にも活用して検討を行った。
- ・掘削後に想定される植生について、本格的な工事実施前に近傍箇所で試験的な掘削を行い、その変化についてモニタリングを行った。結果を地元との意見交換でも共有し、整備後に想定される状況なども含めて議論ができた。
- ・多様な利用形態を継続させつつ、地域文化にも配慮した掘削河岸の形状が設定できた。

<今後の対応方針>

- ・礫河原の維持については、地域と状況把握しながら、協働した維持管理を行うことなどを提案しているところ。
- ・具体的な整備イメージについて経年変化なども含めた景観イメージを作成し、分かりやすい河川整備を目指す。



備考

- ・令和5年11月16日から令和6年4月21日、沙流川流域に伝承されているアイヌ文化(舟降ろしの儀式(チアサンケ)や古式舞踊など)についての展示会がイギリスのジャパンハウス(ロンドン)にて開催予定(対応機関:平取町ほか)。

問合せ先 北海道開発局室蘭開発建設部鶴川沙流川河川事務所
 電話番号 (01457)2-4221